

令和6年度

第4回丹後「子育て」サポート協議会の概要

1 日時 令和7年1月28日(火) 14:30~16:30

2 場所 京都府宮津総合庁舎 本館1階第2会議室

3 出席者 丹後「子育て」サポート協議会顧問

杉岡秀紀(福知山公立大学地域経営学部准教授)

丹後「子育て」サポート協議会委員5名

多々納智(京都府宮津天橋高等学校 教諭)

関奈央弥(合同会社 tangobar 代表社員)

櫛田啓(社会福祉法人みねやま福社会理事)

野木俊宏(京都府立丹後海と星の見える丘公園 園長)

稲本朱珠(与謝野町高校魅力化コーディネーター)

各市町教育委員会担当者

事務局(丹後教育局)



4 報告

- ・高校生意識調査アンケート協力校への結果返却について
- ・令和5年度第4回から令和6年度第3回までの協議の振り返り

5 協議「今年度の協議のまとめ・来年度の協議の方向性について」

(1) 丹後の『子育て』関係者の協働を生むためのメッセージのまとめ

① ワード選択

ア 「丹後が好き」「大人も子どもも一緒」「行動・体験・経験」

- ・故郷が好きという高校生意識調査アンケートの結果(丹後が好きという高校生は90%)は、推したい。
- ・大人も子どもも肩を並べる、対等な存在であり、互いに不完全なものである。
- ・大人も子どももたくさんの体験をすることが必要だと考えている。

イ 「対等に」「~しあう」「一緒に」

- ・目的に向かって一緒に育ちましょう。
- ・未来は子どものためのもの。みんなで楽しく未来を創る。

ウ 「大人は信じる」「子どもが決める」「今に夢中になる」

- ・大人は「子どもを信じて、待つ」ということができること。
- ・安心感を与えるアタッチメントが重要であり、大人は子どもに対して困った時に手を差し伸べられる存在でありたい。
- ・子どものしたいことの決定権は子どもにある。しっかり決めさせたい。
- ・「今に夢中になる」(奇跡の保育園の大川茂子さんの言葉)ということが結局将来につながる。今を楽しめることが未来を創る。

エ 「枠」「親育ち」「経験価値」

- ・大人の枠に納めなくていい。許容していきませんか？子どもの枠も大事にしませんか？という考え方を大人に求めたい。
- ・カッコいい大人を見せるための親育ち。高校生にどんな大人になってほしいのか？イメージを促したい。
- ・経験価値に目を向けると、地の利として経験・価値を丹後で使い切れていないのではないかと感じる。もっと丹後を知るための体験や学びをしませんか？というメッセージにしたい。

② 選択されたワードについて

ア 「今に夢中になる」

- ・園児を見ると夢中なことがあるが、高校生を見ると夢中になる場面が減っているのではないかと感じる。
- ・今を夢中で生きることについては、出し惜しまないでほしい。そのために、本来持っている力を出せる環境、「子育ち」できる環境を大人が創っていく。
- ・高校での探究活動の時間を夢中になれることに使ってほしいと思っている。

イ 「子どもが決める」

- ・高校生を見ていると、先を考えすぎて枠を決めてしまい、今に夢中になれていないことがある。大人が先の話をして、高校生の「今」を決めようとしてしまっているように感じることもある。高校生も大人の納得を求めて動いてしまっている。
- ・高校での進路に係る三者面談の場面。保護者が生徒の言葉を発する機会を奪っている環境の生徒は、その場では喋らない。
- ・ある父親は担任から進路選択について意見を求められたが「ここが思案のしどころ」とだけ答えた。結果として生徒が自分で決めることにつながった。

ウ 「大人が信じる」

- ・自分で決められない生徒が高校生にもいる。それは自分で決めることが怖くなっている状況。しかし、保護者が子どもに小さい時から決めることを経験させていると子どもは自分で決めることが当たり前になっている。
- ・自分を信じてくれている誰かがいるという安心感を作ることができればいい。
- ・周囲の大人がその子を信じることで、その子は安心して決めることができる。

エ 「大人」

- ・保護者と大人を分けることもあっていいのではないかと感じる。子どもにとって肉親は特別な存在であることを考えると保護者を「大人」という括りに入れることでいいのかという思いがある。

③ メッセージの形式

《事務局から》

中心のメッセージを【濃いめ】、そのメッセージの説明にあたる部分を【細かめ】、念を押すサブメッセージを【とどめ】として、イメージも含めて考えるとどうなるか。

【濃いめ】

《中心のメッセージ案》

- 「子どもが決める 大人は信じ、見守る」
- 「大人は信じられているか？」



「『私が決める』が未来（丹後）を創る」

《協議》

- ・疑問形にすることで自分に矢印を向ける。
- ・丹後に「みらい」というふりがなを打つ。

【細かめ】

《メッセージの説明案》

- ・大人が子どもに対してできること（対等に、寄り添い、信じ、相談を受ける。時には待ち、勇気づけ、素敵な姿を魅せる）を示す。
- ・大人が背中を見せる、等身大の自分をさらけ出す、ということの中には失敗する姿も含まれる。ありのままが出せる姿を「かっこいい姿」としたい。
- ・「育つ」ことは子どもも大人も同じで、一人の人間としてすること
- ・このメッセージのミッションとして大事な部分は「子どもが主体に」と考え整理し、「子育て」をサポートする環境づくりの流動を示す。

子どもの主体性が奪われている現状をどう打開するか

↓

子どもは、自己決定できる状況がサポートされていれば主体性が保たれる

↓

子どもが、安心して自己決定できる

↓

大人は、できること（寄り添う・信じる・待つ・背中を見せる等）をする

↓

子どもは、安心して夢中になれる

↓

子どもが、未来を創る

【とどめ】

《サブメッセージ案》

- 「大人も夢中になれている？」
- 「子どもの選択肢を広げてやれている？」
- 「様々な選択肢を示してあげられている？」

《協議》

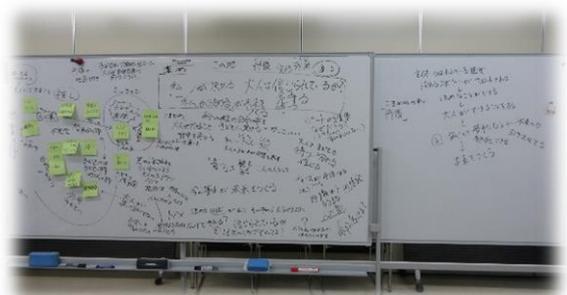
- ・大人は子どもの選択肢を増やす存在である。広い選択肢の中から自分で選択できるサポートをするのが「子育て」に大切な視点だと言える。
- ・人の数が多いのは都市部だが、人のつながりが多いのは田舎であると感じている。その丹後の強みを生かして大人は子どものために選択肢を広げていくことが望ましい。選択肢を広げるのは他力でいい。
- ・興味関心を超えた幅広い体験ができる環境を大人が整えられればよい。

【イメージ】

子どもが決めている場面。大人は自分自身に問うように見ている。

④ その他

- ・メッセージ案の議論の中で「丹後」が置き去りにになっているのでは？
→メッセージの説明にあたる部分【細かめ】の中で、丹後の子どもは「丹後が好き」が9割だが、なぜ5割しか住みたくないのか？というアンケート結果を問



うことで「細かめ」の中に丹後を入れることができるのではないか。また、イメージに丹後の形を表現したものを使えば丹後を意識できるのではないか。

- ・都市部に住む人の中には丹後で何かを始めるチャンスを窺っている人もいる。地方から創る、丹後から始まる人育ち、人財育成ができればよい。
- ・若者には熱狂できる力がある。熱狂の先に未来があり、熱狂できた人が成功する。

(2) 来年度の協議の方向性について

- ・協議会の目的及び役割の再確認・効果的な協議会メッセージの発信・ロードマップ
- ・高校生意識調査アンケートの実施

6 助言（杉岡顧問）

丹波市に関わる中で丹波という地域が兵庫県と京都府に分かれた由来を聞くことがあった。もともと丹後は兵庫県に入っていたが、京都府は海を欲しがり、兵庫県から丹後を譲ってもらう交渉があった。その結果、もともと一つだった京都府の丹波の一部を兵庫県に譲り、今のような縦長の京都府の形になったという説である。おそらく歴史の中で白熱した議論とその上での決断があったのだろうが、本日の協議からも京都府丹後はそういった議論と決断ができる土壌を受け継いでいることが窺える。

(1) 高校生意識調査アンケート

- ・継続することに価値がある。
- ・感情や経験だけで議論するのではなく、アンケート結果というエビデンスを示し、説得力を持たせながら議論できる。そこが本協議会の代名詞的な事業である。

(2) メンバーの充実

- ・本協議会は、世代も若く、熱意のあるメンバー構成である。こういったメンバーで議論をするかによって、その成否が決まるといってもよい。
- ・前回の大阪万博でも若き日の岡本太郎ら若手に委ねられ成功を収めている。私たちも、子どもたちが丹後の未来を創る動きができるように、子どもたちに任せられるとよい。
- ・「事務は運動なり」つまり事務の仕事はムーブメントを起こすこと。そのムーブメントの引き出し方を大人が子どもたちに示す必要がある。この協議会の事務局は協議の形を立ち話での対話形式にチャレンジするなど、率先垂範している。
- ・この場は、協議の枠にとどまらない進化と深化が感じられる協議会である。

(3) 協議会メッセージの発信についてのアイディア

- ・朝来市：LINE スタンプ
- ・笠置町：住民主体のPR動画
- ・宮津市：吉津地区住民参加の短編映画
- ・豊岡市：メッセージ性の強いポスター及び分かりやすい啓発漫画を行政が作成
- ・宮崎県小林市：行政が作成したものとしては再生回数が突出しているPR動画
- ・福知山市：「福知山の変」まちを変えていく変化人シリーズ

7 まとめ

事務局がメッセージとして形を整え、改めて委員に提案する。